なの花薬局 登戸店

住み慣れた地域で自分らしく。

医療人として、人として、暮らしと人生に寄り添う存在へ。

顔を見るのが楽しみだよ

頼れる、安心できる。
もう一人の
家族のように。

在宅訪問のエキスパート店舗。
“ご自宅”という環境下で、
いかに最善をご提案できるか考え抜く。

神奈川県川崎市多摩区。多摩川を挟み東京都に接するJR・小田急登戸駅から徒歩約5分の場所にある、なの花薬局登戸店。豊かな緑が点在するこのエリアは、駅から少し離れると閑静な住宅街が広がっている。
外来業務と並行して登戸店が担当する在宅訪問件数は月に約200件。その約9割が、個人宅だ。依頼は、プライマリ・ケアの専門医で訪問診療に積極的な門前のクリニックをはじめ、多職種からの紹介により近隣の市立病院、医科大学附属病院の患者さまを担当。要介護認定の方から、小児の難病患者、がん終末期の方まで多岐にわたる。一人ひとり異なる症状や生活環境を目の前にして、どう最善を尽くすか。早川薬局長を中心とする薬剤師7名の熱量が、患者さまや多職種たちの心を動かしている。

興味分野を掘り下げ、実務経験を積む機会を

24時間医療従事者が居る入院時の環境とは異なる自宅療養。薬剤管理によって少しでもご自宅での医療の質を上げたい、その想いで薬剤師たちは個別の症例を掘り下げ、勉強を続けている。関連分野の書籍や文献を調べたり、社内では各専門分野をテーマにした臨床系認証研修を実施。さらに、実務経験を重ねる中で興味のある分野が見つかれば、担当の機会を与えてもらうなど、専門性を伸ばす環境づくりも進めている。

多職種との密な連携すべては地域を知るために

「地域を知りたい」。早川薬局長は医師の往診同行や、近隣病院の研修募集に自ら手を挙げ参加。その実績から医師とのカルテ共有が実現し、確実な薬物治療の提供につながっている。また、多職種との情報共有はクラウドツールを活用、常時、全員が同じ情報を持って在宅訪問準備に取り組んでいる。退院時カンファレンスでは、病院の薬剤部と連携。退院後にスムーズに自宅療養に移行できる薬剤の提案などを行う。

患者さまとより近い距離感で希望される看取りを叶えたい

末期のがんで余命1ヵ月と言われた40代の患者さまを担当。麻薬の注射を在宅で行うため、多職種と連携し週2回ずつ訪問した。主治医は2週間に1度だったため、患者さまとはより近い距離感で接することができた。そして、4ヵ月。亡くなられたことを、真っ先にご家族から連絡を受けたのは、薬剤師だった。主治医からは「熱心に向き合ってくれた」と言っていただき、ご家族からは余命が延びたことに感謝いただいた。

患者さまの
生活環境や想いを
汲みながら
信頼を重ねる在宅に。

なの花薬局 新百合ヶ丘店　薬局長
荒川 夏織　Kaori Arakawa
2017年入社

学生時代から在宅医療に精通した薬剤師になりたいという思いがあり、黎明期から在宅訪問に力を入れている、なの花薬局への入社を決めました。入社後、希望通り在宅訪問の多い店舗に配属となり、求められるスキルを学びました。現在の店舗は呼吸器内科と皮膚科の門前で、外来から在宅訪問に移行するケースが少ない店舗です。しかし、登戸店から在宅訪問の紹介があり、それを契機に、医師から直接新規のご依頼をいただくようになりました。在宅訪問では、薬剤師の訪問に抵抗を感じる患者さまもいらっしゃいます。私は、他愛ない世間話から会話を重ね、患者さまのご希望や想いを汲み取るようにし、その上で薬剤師としてお願いすべきことをお伝えしています。その甲斐あって「毎週来てくれるのはありがたい」と言っていただけた時は、患者さまが信頼してくださっていることを感じて嬉しかったですね。また、糖尿病の患者さまの訪問では、登戸店の管理栄養士と連携。食生活や数値の改善に貢献でき、医師や多職種からも信頼を得ています。今は、薬局長に就いて1年半。まだ勉強の毎日ですが、かつて新人だった私に在宅経験の機会を与え、社内の在宅委員会に推薦してくれた上司の姿を思い出し、自分もそのような薬局長でありたいと思うように。最近は在宅医療を軸にしながら、後輩薬剤師の教育に注力するキャリアにも興味を持っています。

入社直後・北海道での新人研修

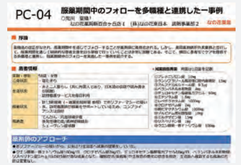
当時は集合型研修だったため、北海道札幌市にある宿泊研修施設で記念撮影。全国に広がる同期と親睦を深めながら医療人としてのマインドや社会人のマナーを学びました。

1年目・武蔵新城店

外来対応、薬剤の在庫管理などの業務と並行し、薬局長や先輩薬剤師が担当する高齢者施設・個人宅の在宅訪問を十数件ほど経験。間近でスキルを学びました。

2年目・在宅委員会に加入

当時の薬局長に掛け合い、社内の在宅委員会に推薦してもらいました。本来は4年目以降から加入できる委員会。若手のチャレンジや積極性を評価してくれる社風に感謝しています。



3年目・学会発表

服薬期間中のフォローが義務化される前に、コミュニケーション学会で在宅チームにて症例を発表。多職種との連携は在宅訪問に不可欠であり、他の薬剤師の関心も高く、様々な質問を受けました。

3～4年目・地域の健康イベント

2年目5月から現在の新百合ヶ丘店に異動（2021年～同店薬局長）。3～4年目は「健康サポート薬局」認定の取り組みとして、地域包括ケアセンターからの依頼を受け、健康イベントを企画・開催。地域の皆様にお薬の飲み合わせや、おくすり手帳の必要性などを講演させていただきました。

TOPICS

同期の絆! 何でも話せる仲です!

同期とは仲がよく、産休・育休を取得中の仲間もいます。横浜浦舟店の薬局長の同期は、今も毎日連絡を取り合うほど。何でも話せる同期がいるのは心強いです。